

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團

參謀部
電報用紙

秘

電報

昭和九年五月一二日 午後七時

一〇時

着番號

4

參謀長

宛 發信 步三又第三大隊長

本文

林 四〇 其二

三、事件發生ト共ニ作候ヲ派シ下營ヲ中心ト
 セル附近ノ関内ヲ搜索セシニ酒井特務曹長
 一作候ハ下營東方一千米ノ高地ヲ數十發
 一射撃ヲ受ケタルヲ以テ之ヲ搜索セシニ土民
 一番言ニ依レバ薊縣保安隊員ナル事確實ナ
 我ニ損害ナシ
 尚其ノ確證ヲ得ルニカメツ、アリ

陸軍

四、大隊ハ命ニ依リ嚴ニ將兵ヲ戒メ隱忍自重上司ノ折衝ニ依リ皇軍ノ威信ヲ失墜セザラン様事件解決ヲ待ツ、アリ
將兵一同士氣旺盛ナリ

五、昨日ノ指示ニ依リ馬淵參謀トノ連絡者トシテ數田中尉以下四名ヲ午前八時薊縣へ出發セシムル筈、
通電先、七師歩三旅、歩ニス、
(終)

(急電)

40
發信濟

豊田中尉

並 馬場参謀に連如、結果 至急 承取

警隊物兵一名、東部之十、去策一層 監査七ヲ決リ 柵ナラ 他快

電報 (暗)

受信者	件名	長	團	師	番發
林田カ化	薊州月件	長謀參	將少附		號翰
		者帶連	部主任		
		長部	長部		
發信者		官副謀參	任主	者保職	
参謀長		尉大附		印管員	
		員	部		
					昭和9年5月12日
					昭起案
					日發送
					者發送
					印送

参第二三號

山

淨書者印

160字

17

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長
	皆澤		6	廣		

參電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年三月十二日 午前九時

參謀長宛 發信 北京武官補佐官

四分

翻譯者

着番號

13

本文

北京三一二

馬淵參謀ヨリ

昨十一日夜九時北平ニ著ク

本日午前八時蘄縣ニ向テ出發ス

殷汝耕・魏永和同行ス

松井中佐ヨリモ宜敷ク

陸軍

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長
	皆		6	藥		

參電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年三月十二日 午前九時

參謀長宛

發信 北京武官補佐官

着番號

13

本文

北京三一二

馬淵參謀ヨリ

昨十一日夜九時北平ニ著ク

本日午前八時蘄縣ニ向テ出發ス

殷汝耕・魏永和同行ス

松井中佐ヨリ電敷ク

陸軍

發	5月12日	午	時	分	分	發	於
着	月	日	午	時	分	信	68号
受						信	棧
者						發	

矢野博長 殿

南島中村 棧

一、去揚編隊、所令、威嚇、執行、

安否、之、且、各々、解散、し、所、要、ノ

近況、ヲ、承、徳、ニ、詳、述、セ、リ

二、刺撃、隊、ハ、若、テ、人、影、ヲ、路、上、ニ、救、免、ス

他、部、隊、ト、交、通、ニ、稍、愼、後、ト、ソ、ン、セ、リ

如、シ

三、ソ、ノ、如、ク、折、却、的、強、ト、作、テ、リ、如、ク、派、ハ、シ、テ

四、下、部、隊、隊、報、告、ヲ、同、封、セ、リ

下、部、隊、南、側、高、地、(130)ニ、監、視、哨、ヲ、配

置、シ、テ、シ、他、變、化、ヲ、想、メ、ス

五、在、此、際、10/26ニ、高、木、部、隊、長、ノ、書、物、ヲ

投、下、シ、テ、全、員、元、氣、ナ、リ、ト、信、守、テ、リ

又、余、ハ、各、部、隊、送、書、教、ヲ、投、下、シ、テ、帰、隊、ス

(同封、軍、團、通、信、隊、宛、書、物、ヲ、馬、取、ス)

二枚目

取

發	月	日	午	時	分	發	於
着	月	日	午	時	分	信	
受						信	
者						發	

殿

七、刺撃、隊、時、攻、破、ヲ、期、望、シ、

結、核、ヲ、必、要、ト、シ、他、部、隊、ヲ、補、足、シ

ヲ、サ、レ、ニ、ト、シ、拮、据、シ、テ、希、望、シ、テ、

要、ス、ル、師、團、ニ、於、テ、決、定、ヲ、成、度

取、馬、取、ス

取



派歩三六五情第九號

下營附近情報報告

昭和九年五月二十三日

第七師團長殿

林田大隊長

昨十九日午後九時二十分下營南方高地より

我中隊等營地に向て四發ヲ射撃セルモノアリ

一発ハ隊本部ノ屋上ニ飛来セリ

目下捜査中ト共ニ警戒ヲ嚴ニナシツキアリ

昨十九日夕六時頃便衣ヲ着セル疑シキ者六名

下營西側河川流ニ沿ヒ入り込トセルモ歩哨ニ

何セラレハ走セリ

既報中下營地ニ時奉セシモノ其ノ者ナラント

判断セラルル節ヨリ

昭和八・四大阪本納

陸軍

四事体完生り共ニ所迄ヲ成レ下禁ヲ申心トセシ
 ニ吉米ノ團ヨリヲ搜索セシニ海村村ノ長ノ
 身後ニ下禁車才千米高方アリ約千段ノ
 村車ヲ取又々々々々以テ戒ノ所也ノ土民力運物ナ
 リト該認セシヤリ慮リヨ奉軍タルト大聲言シ
 再之知ラシメタルニ南村車ヲ預送セシ積工
 搜索セシ土民一云ニ依リ蘭果係安隊タル
 不ト醒室ナリ我ニ損害ト目下其ノ確説
 了ルニカマフナリ
 五年九月三日
 陸軍上司令ノ折衝ニヨリ皇軍ノ威言ヲ失墜セザ
 ラン様事件解決ヲ待望シマハリ
 将兵一月志氣旺盛一名ノ患者ナシ

六 附近住民ニ何等ノ不安ナラズ事ハ、恰モ亦ハニシ
テ 近在ヨリノ人出ヨリヲ雜踏ヲ極ナクハアリ

七 本午 前ナ時 下管附近要人連ヨリ皇軍

慰問ハ括シ酒、煙草、菓子、鶏、豚肉等

ヲ多數持来セシモ其好意ヲ謝シ返却セシト

セシニ再三ノ懇請アリシヲ以テ此レヲ精神のニ享

クルコトトシ物出ハ金品ニ換ヘ附近住民ハ施

ス様申 述ヘ返治セリ

八 宣撫班ハ本市ヨリ人出ヲ利用シ活動シ

効果ヲ著クセリ

九 密偵並ニ不逞固ノ潜入不法行爲ニ對シ

ハ厳重警戒セリ

報告先 師團長 旅團長 聯隊長

陸軍

十
指示
真測
連
四
出

派歩三五情第十號

昭和九年五月十日午後時

第一師團長

林田大隊長

下營附近情報之出

一昨十日午後九時四十分酒井兵候二對之射擊

セシ件ニ付、劉家庄(下營東方四吉)住区ニヨリ調

査セシ結果尤、如

十日午前八時以奉銃ヲ携持セシ劉家庄保安隊

員ニ名劉家庄ノ路紳長(付此、自衛團長)

定ニ事リ午後六時即長八保安隊及自衛團

員十數名ト共ニ北方ニ向ヒタリ(團員、全部小銃

ヲ携帶セリ)

劉家庄付此、江氏、十日午後三時進駐アリ

陸軍

師長並三自衛団員ら未夕歸集せし所衛

石明十々
報告先

師団長
旅団長
聯隊長

昭和八・四大阪阪本納

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
		⑤			⑤	

參謀部

電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年五月十一日 午前

午後

宛 三〇時

發信者 四〇分

翻譯者

着信番號

二一

師團長

林田三六隊長

本文

ハヤ四一 其ノ一

酒井特務曹長ニ對シ射撃セシ件

劉家庄住民依リ調査セシ結果左ノ如シ

十一日午前八時頃拳銃ヲ携行セル劉某

保安隊員二名、劉家庄ノ郷長(附近ノ自衛

團長)ノ宅ニ来リ、午後六時郷長ハ保安隊

員及ビ自衛團員數名ト共ニ北方ニ向ヒ

タリ

文章ノ整理ト要旨ノ把握ニ欠ク

陸軍

參謀部
電報翻譯用紙

電報

翻譯者

昭和九年五月三十一日

午前

時五〇

分

着

番號

22

師團長

宛

發信者

才三大隊長

本文



林四一ソノニ

(團員ハ小銃ヲ携行セリ)

劉家庄附近ノ住民ハ十一日夕ヨリ逃走避

難ス

密偵及不審逞團ノ潜入ニ依ル不法行為

ニ対シ嚴重警戒シツツ在リ

下營要人連慰問品ヲ持參セリ

術無厚意ヲ謝シ返却セシモ再參懇心請

アリシヲ以テ精神的ニ復タル事トシ物品ハ

陸軍

金品^{ニ換}井^ノ附^ノ近^ノ細民^ニ施^ス様^ニ速^ク返^シ済^ム
宣撫班ハ活動シ^{セリ}効果ヲ上ゲツツ在リ

(終)

通電先

師團長・歩一三旅團長・歩二十六聯隊長

秘

參謀部
紙

電報

昭和 年 月 日

午前

時

分

分

翻譯者

着

番號

本文

參謀長

馬淵參謀

32

林号外

松井中佐小官八午右一時刺果不着又
大隊副官ト会見ス 問題ハ訓令一通
解決可能ノ見込

副官部

師團長參謀

主任



陸軍

發信濟

番發 號翰 七參第 二七號 昭昭和 9年 8月 3日 日發送 者發印

(受)

長團師 長謀參 將少附

者帶連 部長 主任部長

官副謀參 任主 者保職 印管員

員部

件名

蕪州事件 第十報

發信者

參謀長

受報 (略)

① 馬湖參謀、報告、依、同官、予定、如何、飯、耕、魏、永和、同行、松

井中、他、者、十、音、午後、時、蕪州、到着、左、下、營、日、林、大隊、ヨリ、派遣、又

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

2024 2/25

淨書者印

乙

4



副官部	謀参丙	謀参乙	謀参甲	長謀参	長團師
			⑥		

(主任)

電報翻譯用紙
參謀部

秘

電

報

昭和九年五月一日

午後一時十分
午後一時十分

翻譯者

着番信

39

本文

參謀長

宛

發信

北京武官補佐官

北京 三一三 其一

一、松井中佐一行(支那側般汝、魏永和等)本十一日午前八時當地發前線ニ向ヘリ本件解決ニ関シ小官昨日何應欽ヲ訪問シ打合セセシ所彼ニ大體承諾シ「般」ニ言合メアル筈ナルニツキ本日中ニハ師團ノ要求通り全部解決スル見込ミナリ

(續)

陸軍

師團長 參謀長 參謀甲 參謀乙 參謀丙 副官部

(主任)

秘

電報譯用紙

王急電

昭和九年五月十三日

午後一時〇〇分

報

宛

發信

北京武官補佐官

翻譯者

着番號

ノニ

本文

北京

三一三

其二一其三

但し本件ノ解決ニ関シテハ對内關係上其真相ヲ發表セザル様何應欽ヨリノ希望モアリタル次第ナルニツキ一切發表セザルコトト致シ度ニ從來ノ經驗ニ鑑ミ今固々ハ事件ノ解決ヲ容易ナラシメ且ツ地方一般民衆ノ對日感情情ヲ刺戟セザル様支那側トモ打合せノ上事件當初ヨリ一切發表セザルコト、致シタル次第ナルが將來ニ於テモ此種局地問題ハ事件ノ性質ニ依リ

陸軍

發表ヲ得策トセサル場合アルニツキ將來這般ノ事情ヲ顧慮セラレ當地以外ニ於テハ一切發表セサル事ト致シ度

通電先、軍、天、承機、七師

(終)

副官部	謀参	謀参乙	謀参甲	長謀参	長國師	任主
			⑤	④		

參謀部
譯紙

秘

電報

昭和九年五月十三日

午前八時
午後九時
〇〇分

宛

發信者

支那駐屯軍參謀長

着番號

3

翻譯者



本文

天五〇〇 其ノ一

薊縣射擊事件ニ関シ本日于與子忠ヲ訪問シ
彼ノ意見ヲ喚起セル處彼ハ相當 當惑セル面持
ニテ事能ハ擴大セザル標歎願セリ
依テ小官ヨリ何レ関東軍方面ヨリ正式ノ交渉アル
ベキニ件誠意ヲ以テ速カニ事件ヲ解決スルハ
事件ノ解決難ヲ防止スルヲ最良策ナル旨應
酬シタルニ
(續)

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
電報紙

秘

電

報

昭和九年五月一二日

午前

八時

六時

翻譯者

着

番號

々

參謀長

宛

發信者 支那駐屯軍參謀長

本文

天五〇〇其ノ二

般汝耕並ニ關係者ニ電値シ速決セシムル採取計ルベキヲ
 繰返セリ。 民国ノ重火器取上ゲニ就イテハ若干困難
 ナル内部的事情アルガ如キモ此ノ際期限ヲ指定シ
 其ノ実行ヲ要求セバ實現セシメ得可ク觀察セリ。
 恐ラク民国ノ重火器没收ノ如キハ今次ノ機会ヲ逸
 スレバ著シク困難ナルニ到ルベシ。
 通電先 參、陸、團、北、山、承、七師

陸軍

三野軍意見

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
電報用紙

秘

昭和

九年

五月

一日

午後八時

十七時

四時

發信者

馬淵參謀

着番號

10

電

報

翻譯者

本文

林。

林田大隊長午後十時四十分薊縣ニ着ス
 午後十一時三十分責任者謝罪ヲナシ、且ツ其他ノ
 要求事項ハ悉ク原案通り承件セシム
 薊縣保安隊ハ本日直々ニ三河ニ移駐セシム

駐

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
電報譯部
紙

秘

電報

昭和九年五月一日 午後八時 宛

師團長 宛 發信者 第三大隊長

本文

林 四二

十二日午後十一時薊縣ニ於テ責任者ハ正式
謝罪
我要求ヲ悉ク承認セリ部隊ハ本日午後薊
縣ニ入ル豫定

通電先

師團長、歩一三旅長、歩二六旅

陸軍

翻譯者 着番號 9

發信濟

參第二九號

昭和7年5月13日
昭起案發送者印

淨書者印

162 (4)

7

批(急)

呂

師團長		發信者		受信者		件名		番發號	
參謀長		參謀副官		參謀副官		參謀長		參第二九號	
附少將		主任		主任		主任			
連帶者		部長		部長		部長			
參謀副官		主任		主任		主任			
附大尉		部長		部長		部長			
員		部		部		部			
發信者		發信者		發信者		發信者			
參謀長		參謀長		參謀長		參謀長			

林口三郎承

電報

(急)

荊州 (系下管) 井岡在隊

發信者 參謀長

師團長 參謀長 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官

方在刺 參謀長 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官 參謀副官

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
	(印)	(印)	/	(印)	(印)	

電報譯部

秘

電

報

翻譯者

昭和

年

再

十

午

前

時

分

着

番

西

參謀長

宛

發信者

馬淵參謀

本文

ハヤ

腹

正子謝罪及支障ヲ終リ直ニ杯ヲアゲ

引継キ夕食ヲ共ニス

日本側、松井中佐、馬淵參謀、林田大隊長

數田副官

支那側、殷汝耕、魏總隊長、縣長郭

徐營長、專員公磨、ジンギコウセン等

ト備議ヲ終リタルハ、正日午去一時五分

記念撮影ヲナス、兩者意志ヲ疎通ス

陸軍

團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
電報翻譯用紙

電報

昭和九年五月十三日

午前二時五分

參謀長

宛發信者

馬淵參謀

翻譯者

着番號

15

本文

林。

松井中佐及小官ハ殷汝耕魏永和ト共ニ
 五日一組北平ニ引上ゲ北平武官ト連絡
 シ同日午後二時出發天津ニ赴キ
 軍司令官其ノ他ニ挨拶シ十四日再ビ
 殷ト共ニ山海関ニ至リ儀我大佐及陶
 尚銘ト共ニ會見ノ事定
 十五日飛行機ヲ山海関ニヨリサレ度

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
	瀧本	⑤				

參謀部

秘

電報

昭和 年 九月 日 午後 時 分

翻譯者

着信番號

參謀

長宛

馬淵參謀

本文

林号外

本日午後二時下營ヨリ部隊薊果ニ入城
 之當地一泊一日馬淵嶺ニ出発ノ予定
 ナリ、住民中ニハ既ニ他ニ避難セルモノアルモ
 前日乘ノ交渉圓滿ナルト 般汝耕並ニ果長
 等ノ訓示ニ依リ安堵ス
 皇軍ノ宿營ニ依リ一層兩者ノ意志ヲ疏通
 之且皇軍ノ眞價ヲ示シ得ルモノト認ム
 詳細ハ筆記報告ス

陸軍

團長 參謀長 參謀甲 參謀乙 參謀丙 主任 連帶

(6) (印)

秘

電報翻譯用紙

電

報

昭和九年 五月十三日

午前十一時四十分

參謀長

宛 發信者

林田

着茶 着信 番號

19

本文

坂馬三一

昨夜事件ハ円満ニ解決ス
部隊ハ本十三日夜ハ薊縣ニ泊リ十四日馬蘭峪
ハ引上ル歸還セントス

陸軍

（電急）

3

發翰
番號

七參第三三號

職
者印

昭和

9年

5月

13日

起案

發送

發送者印

發
送者印

師團長

附少將

參謀長
濱本

主任部

部長部

主任部

部員

件名

受信者

薊州

井田少佐

發信者

參謀

長

發

岩仲三郎

要報(暗)

派馬三一(受領)

費部派(受領) 一年九、十月、十一月、十二月

暫く今年7月迄

淨書者印

150
張

14

發 5月13日 午 時 分
發 於 伊予 檜中府

受 信 者 殿
發 信 者 櫻井 香 子 氏

一、下等郵便に午後二時十分

十割州へ入付せん見込

午後五十分十割州時九分二五

物之運送に休憩あり余は発初抵

以今合一果之キリ以テ通信釣取リテ

直ニ帰還ス

本田ハ佐ノ本口午前八時五十分

逆送ニ赴キントキ航ニ入付シテリキ

二、西側各埠日打内少佐ノ托せん

報告ヲ同封ヤリ

林田少佐ノ云ハ前時一區南端川

渡所ニテ西面端部亦カ筆記セシ

三、

西側各埠附近ノ事情ニキテ各所

ノ扶養ヲ通報ス

四、余道ニ飛行場ニ帰還ス以上

發	月	日	時	分	分	於
着	月	日	時	分	分	地
受	殿	者	信	發	者	信

同松 中佐 殿
 林田 金城 殿
 〆ニウ 五長

新予徴心 膺月スハキ命ヲ受ケタシトモ
 其ノ才法 手紋ニ至ツテハ上司ノ意ハ
 固ク體シ 隱忍力ナクナリ
 然レニ 昇格ハ 意面ナキ 排日能ハ
 度ニ出ラ 事件ニ對シテモ 責任
 同辭ニ 汲ク先ノ 欲明瞭スル
 殊ニ 劣事者 先保安隊長ニ至ラハ
 交渉ニ 示ハ 確心モス 直ヤニ 我レノ
 提示ヲ 一蹴シ 其ノ家 限無禮ノ
 彼レノ 能ハ 信スル 意ハ 未ダ 既ノ 極ニ
 二候

兩官 願フ 部下 指スル

發	月	日	時	分	分	於
着	月	日	時	分	分	地
受	殿	者	信	發	者	信

皇軍 意識ノ 信心ヲ 把握シ
 愈ハ 持テ カラシムタメ 其威信
 リ 十分 發揮セシメタリテラ 觀
 念ハ 功業ヲ 示シヤウ 役
 謝 罪 筆 示 十分 微 忝 せん
 一 部 隊 長 ト シテ 十 官 ノ 希 望 ヲ 數
 田 中 尉 ヲ 街 聴 取 然 事 ヲ 照 臨
 事 業 ノ 進 行 中 也

切 願 止 二 候

一十部隊長トシテ十官ノ希望ヲ數
 田中尉ヲ街聴取然事ヲ照臨
 事業ノ進行中也

文



情況經過報告

一、北平到着迄

一、松井中佐、小官及霍実同車 五月廿日午前十時五十分承德

出發 途中長山峪 小憩 晝食、 古北口 石井大隊本部

二、旅平約三十分 休憩 此間霍八出發 準備、轉進へ 松井

中佐及小官、 永見 聯隊長 及石井少佐、會談ス

二、殷汝耕、古北口、午後一時出發ス

左

巨

昭和八、四、大阪 OK 納

3. 午後三時古北口ヲ出發シ午後五時三分密雲ニ

著シ縣公署ニ小憩ス 邱縣長以下款待ス

4. 午後九時北平——武官室ニ到著ス

二、北平——滞在間

午後九時ヨリ約一時間武官室ニ於テ柴山武中

佐ト會談ス

事件ノ顛末及師團ノ要求事項ヲ説明ス

2. 柴山中佐ノ開示セシタル所尤ノ如シ

1. 本件ノ發生シタル上ハ 師團ノ呈出セシタル 要求事

項ヲ飽シテ^{足ラ}支持セザルヲ解決ヲ期ス

円満ニ解決ヲ切望シテ止マヌ

口. 通譯者ヲ第一線下級者ノ言ハ 往々ニテ真相ト

異ル下リ 本回ノ事件ハ別トシ 將來ハ特ニ通譯

ノ使用ヲ慎重シ又重要ニ交渉ハ 將校自ラ

之ニ當ル如クセラレ度。

又事件發生ノ際師團

於テモ第一線ノ一報先ノミヲ信スルテ^{直ニ}処置スルヲ

其ノ真相ヲ精査シタル上処置ヲ講スル様希望ス

尚、鮮人及滿人通譯ハ得テ虎威ヲ藉リ横柄

ニ相手ノ感情ヲ損スル事多シ

ハ事件發生セバ時期ヲ失セズ交渉ノ開始セシメ

時日遷延スルニ從ヒ證據湮滅ス

従て事實ノ調査等ハ 当事 邦学ニ於テ 甚々 実施

昭八、四、大阪 OK 納

スレヲ可ナセン

本回事件ノ如キモ 五月五日ノ事件ヲ 九日ニ至リ 初テノ 實

調査ヲ為シタル 如キモ 斯キニ 何事ヲ 疑フモノトモ 當ル

ニ 當テ来事件ノ 發生セタルノ 詳細ニ 電報セシタシ

簡明ニ 述キテ 事實ヲ 把握シ 得ルモノトアリ

ホ 保安隊ノ 移駐ニ 既ニ 提出府ノ 要求事 項タルヲ

在

軍

飽^ん之^ん力^ん實行^すヲ^レ期^すル^べキ^トス^ルモ^レ將^来左^ノ如^クニ^爲ル^べシ
留意^せレ^度

現在^ノ保^安隊^ニ云^ハ、日^本ノ^息ノ^カリ^タル^モノ^ニシ^テノ

素^質良^好ナ^ルト^モ之^ニ代^ルル^ハキ^モハ^ハ井^ノ以^テお^コヲ^モ良

キ^モカ^キル^ト云^フヲ^モモ^トモ^ト悪^イ程^度ノ^ニ来^ルニ^シテ^モシ

素^任者^ノ名^ノ隔^ルヲ^レ取^捨シ^テ程^度ノ^方法^果ニ^於テ^ハの^レハ^シ

目^下于^テ学^問ノ^許ニ^於テ^ハ訓^練中^ト稱^スル^保安^隊ノ^要求^ハ

現在ノ保安隊ヨリ一層 程度不良ノモノシテ即チ日本ノ

息カシモカ、フテユラス、^意予忠ノ息カシモカ

以テ親正内ニ予忠ノ勢力ノ増加ヲ結果トスヘシ

今ヨリ~~其~~ノ要求ニヨリ 予忠ニ待テテモトハカリ

喜ニテ大的ニ保安隊ノ交代ヲ決行スルニアラスヤト

氣遣ヒルニスアリ 自今トシテ将来 予忠ヲシテ

斯ノ如キ事ヲ為サレザルニ關シテハ為シ得ル限リ努力スヘキ

将来留美、於之此矣 肥廣可及。

3. 殷汝耕、午七時北平、著し 在午河心飲之逢也 尚魏永和

ヲ招致し 養任処置、開心奔走ス

4. 午後十時五分 柴山武官 主催三長春序、於之

會食ス 出席者左ノ如し

柴山中佐 杉井中佐 馬岡少佐

殷汝耕 魏永和 西窪寅人 何孝忱

殷秘書
京都實業大學講義士

昭和八、四、大阪OK納

主客共ニ同歎ニ一決ニ觸レズ 顔合セト意志ノ疎用

~~非~~ 計ニ目的ナシク、也

敢以下支那側ノ者ニ不安ノ情 歴々モアリシモ

誠意ノ披推 示下ニテ 解決ノ見込下ヲ知ラシメ得タ

ルカ也

三、刺縣到着迄

八、午お八時（奉ル）北平ニ出發ス

陸軍

又、出發：先々 執仰（電第14号）及執仰（電第17

第）受領ス

仍テ柴山武官ト左ノ如ク打合セ出發ス

薊新ノ関係武官問題、本回ノ事件ト

直接關係凡内閣トシテ師団長ヲ 殷世耕及魏永和

存重要求スヘシ 然レ本内閣、既に台帳、関係

内閣尤、以テ既に台帳、關係、柴山武官ヲ

何志欽 及于孝忠 要求入

3. 行進 为 自働車 区 左 如し

自働車
督署 为 欠 公署 五 教 志
薛 平 为

第二自働車
殷 汝 耕 魏 永 和
保 安 局 中 如 志

第三自働車
松 井 中 佐 島 國 佐
霍 實

保 安 局 中 如 志

4. 経路

北平—通州—三河—薊縣

六 沿道ノ情况

○通称ニ於テモ 知長以下保安隊員 整列 手配ナリ。

本朝ニ就テ外尤モ 特案ヲ為シテ 沿道ノ警戒ヲ周到シ
公安隊ノ固兵ヲ行フ。

○三河ニ於テモ 縣長以下保安隊 公安隊 整列 歡迎ス

知事署ニ於テ小憩ス 当マ保安隊長 王在元、本マ件
ノ結果 齋知、移駐ス 手配ナリ、及ケルニ於テ 此方申告ス

三十七日 沿道ノ青年ナリ 軍官ヲ拉出自多ナリ
保安隊ノ固兵ヲ行フ

○邦均鎮ニ 歡迎ノ旗ヲ立テ 市民出迎フ。

○孫各庄ニ 保安隊約三百名 整列 行フ 齋知 駐比シヨ

徐松林ノ指揮ヲ保安ノ一大隊ナリ 本島惣永和

命甚ク厚駐地ノ樹去シ此地ニ待機命ヲ待チ去リ去リ

同島ノ軍装検査ヲ実施ス

○午後〇時五分 薊縣ヲ著ス

縣長ニ邨均鎮迄出迎ス 薊縣有力者ニ邨外迄出迎ス

6、三河ニ休整中薊縣ヲ好義宛電送ス 同日日本軍好

お進シ 薊縣北方一帯ニ到着ナリト 一同大イノ不安ノ

情了 一刻九早夕 薊好に到着ニテ世カセラシク申出ス

薊好に到着候 之ハ大抵列及心下カ毎事運送様ノ為是切ニ事

先事ト判明ス

四、薊好公署 到着候

人薊好に到着候ヤ 薊好一ノ下苦送ハ 道故不長ニテ自動車

通セ先下知ル 仍テ予定ヲ変更シ 大隊長ノ入城ヲ促シ

薊好ニ於テ存商 各ニ決ス

2、右列信上別室、於予の時与有談、右存、見状、予、驚、久、

大澤列友、携、帶、來、予、書、類、別、成、也、也、右、存、心、下、

竹、出、一、冊、予、其、上、之、昂、奮、也、見、之、知、也、右、存、列、友、其、自、身、毛、

知、者、等、支、那、例、予、封、し、打、破、也、其、梅、子、看、取、也、

右、存、列、友、之、報、告、支、那、之、既、師、團、二、報、告、済、ナ、リ、ト、予、モ、之、以、此、之、者、略、

右、存、列、友、能、取、也、中、予、以、解、予、南、洋、地、理、志、也、原、因、上、之、思、也、ん、予、老、ノ、

漢、刊、

め、し、

1. 五月五日 大島曹長力 奉聞ニ宿老ニ此後支那人力

陸向より窺フヲ以テ岸動性ト先入感ヲ持ツルカためキ

之ニ支那人ノ感ニテモ 秘疑心防思ヲ生シタル感アリ

任田ハニ反外セシテトカ別高ノ感ハニテモツカメキ

口、以上ノ疑心防思ヲ至キ曹長力兵ヲ至ヒテ西ノ方面ノ偵察アリ

実施シモ曹長ノ斯ノ如キ者動カ却テ支那側ノ利敵シ

兵 陸軍ノ根柢モ亮ニアラスヤ

ハ、五月九日午後七時半、新湯師団へ提出、要求を存重抗議

ヲ為す方ヲ將校力行カスシテ、本番通訳ニ結果好方人

ヲ伴ヒ、提議セシメタル相互、理解ノ生セシムル爲メ、本番通訳

ニ、部内自來団公家等ノ多クテ、地位シテ、保衛ヲ務メ、此ノ趣向ヲ

新野ニ托シ、保衛ト云フ、保衛自來団ノ仲悪シ、互相刺刺ニ立元

保衛自來団ノ趣向

保衛ノ要口ヲ中傷、果シテ、悪ク信シ、凡テ保衛ノ利

為ト爲シ、此ノ趣向ノ爲メ、ナキニシテ、アラス

以上、山官現切ニ事ヲ好留中時ノ報告ヲ取致スルノ感想

ナリ 然レモ 最近、刺射ニ於テ日軍ニ對テ一舟ノ在リ

他ノ如ク比シ 實ニ惡化シテ其元首皆存セシ一節一ナリ

他ノ物色内ニモ此ノ如ク比凡スレテ本回、本事件ヲ其世シ

新然モ其如ク他ノ如ク其元首皆存セシ一節一ナリ

以上、山官ノ對見ハ日中發生ノ古事者ヲ其難ク下テ其元首皆存セシ一節一ナリ

將來ニ成ルルナリ好留中時トシテ其元首皆存セシ一節一ナリ

3. 急使^ラ以テ 大正長及知保ノ 刺殺ニ向テ おは 札

ノ 刺殺ニ 部中ノ 昭十^三言 刺殺ノ 妻ニ^ハキ^テ信^トシ

4. 急使^ラ以テ 一行及 知長 刺殺時ト書^テ長^ク其^ニス

五. 交渉顛末

1. 書^テ長^後 杉井中佐トの官上ノ間ニ^テ研究^ヲ打^テ左^ニ為^シ

名^後 犯人ノ 処^刑、 責任者ノ 正式^ニ謝罪、 保安

隊ノ 移駐、 将来ノ 保障、 刺殺^後 治安^ノ維持

重土器 撤去ノ諸項目ニ關シ殷政料ニ

對シ^内交渉ヲ為ス 殷ニ總テノ條件ヲ承認

スヘキ事ヲ言明ス但シ 保安上ノ輕校(垣東土器)輕校

四ヲ持タズ^即即時撤去シ^所向テ移駐シ奉ルヘキ

五口元土器^{輕校}ヲ保持セズ 總示和團一下再

ニテ^差差引セ^ルルヘキ^自自軍團^ニ關シ^對對新^ニシ

ニ力人モ多陰謀兵器多數ヲ有テ今重千^之ヲ撤去

その能く状況より般に於ては、治あ維持に同武署詳し

き大署の如き、速向収を必要とする事、以て今迄著しく相

回收著しく及収を實施すべく、早急に甘務を、時日を経るにせしむ

ト云ふ。

又、午前十時三十分、林田校長、劉新、劉若、劉若、以下

有力者より判下

林田の佐、対し、松井、佐、及、小官、了、般、中、耕

来漢以来 今迄之於先 交渉之経過ヲ後記シ

且 陰忍自重 武威ヲ示セシ功績ノ大ニシテ 帝甚

ノ多カリシヲ 猶フト甚シ 且 漢方 解決、到達セシ

トシテ、^{（感懐上）}以テ此等 多少ノ誤解 凡カモキモ 大所

有リ多ク、一掃シ 交渉案件ノ成立ヲ以テ

場 是カレシキト述ブ

大抵 巻ノ之ニ同意ス

昭和八、四、大阪OK納

3. 午後七時半 般汝琳 霍定ヲ 招致シ 松井ヲ

佐、以官 林田長ノ 面ヲ、於テ 吾等 要求ヲ

提出シ 且之ヲ 説明シ 其外 悉ク之ヲ 承知ス 仍テ

之ヲ 署名スル

解決條件

一 犯人ノ 処罰

二 責任者ノ 正式 謝罪

在 宣

三、對新保安隊之移駐

四、為來之保障

五、對新保安隊之自來團之重火器撤去

附帶事項

一、八七八之連之其結果，並應之命令之報告云云

二、保安隊之大隊長 陳弘林 之 林日吉如長

謝罪云云

三、勤社伴安序、速、他、移駐せしむ

四、為東軍一、補給路、トスヘキ事、通過日本軍、

宿舎、給食、等、之、開、好意見、援助、為、之、要、久

五、停戦協定、精神、糧、草、一、之、勤、社、好、ノ、ミ、

限、リ、要、求、セ、ル、コ、ト、ア、ラ、ズ、下、ヲ、認、識、ス、ル、要、ス

尚、本、件、之、部、門、中、心、之、事、業、以、外、之、表、現、セ、ル、事、ヲ、約、ス

書、出、ノ、次

一、保安隊ノ行駐、三河勤社入場、相見ノ為、事

差支才无 其以上 亦正固、百、宗施之 人心、部

推セテ先ヲ要ス

二、耕、刺、利、附、止、之、積、名、掛、白、ホ、ニ、タ、シ、ヲ、添、之、利、脱、ス

ニ、要、ス

~~美、在、條、件、ヲ、相、互、に、考、察、せ、ル、外、ハ、數、表、に、先、行、し、得、ル、~~

尚、且、升、般、也、耕、ノ、述、已、可、也、也

不、物、事、物、也、云、日、本、海、軍、出、立、先、ヲ、配、置、し、去、志、ノ、疎、隔

ヲ 集ル下ナカラシム

且 刺好 係 安 好 三 一 般ノ 秘 書 核 七 曲 世 和 日 本

學 者 子 校 出 身 三 十 七 一 三 在 此 為 核 的 一 記 房 一

日 本 中 ノ 交 際 ノ 日 陽 一 切 セ 云

引 ね 集 馬 南 嶽 一 元 古 比 上 同 稱 一 辨 子 知 一 核 置 一 一 一 一

ナ 書 出 一 有 云

4. 正子 杉井中佐 少官 殷世耕 魏永私

曾官 亥 亥 有 一 下 ； 柿田 古 好 長 ； 身 一 責 任 者

徐 亦 林 之 子 正 成 ； 謝 罪 也 云 々 。

謝 罪 文 句 古 也 。

有 形

御 意 云

今、加謝罪後 杉井中佐 南軍可倒ノ事也トシテ

件ヲ述ス、

予件日爲解決ニ對シ、先是ノ意ヲ表ス、

兩降事也 同ニノ聲ノ如ク 收束ニ反部トシテ

親美 關係ヲ深シ 再ニ斯ル事不祥ナリ

際迄ナル様ナリ

之、對シ 願世耕立ナリ 謝罪ヲ望ム事ナクナリ

折入の47十本極限係比入本より折入。

6. 以上より日儲蓄の解決は終り一般の秘書

日儲蓄 康瑤より入る 早の国に4分

共二六

其例、物、安堵し陳述ス

能世琳 孫長、孫政、元主七元より扱込し

安堵蓄蓄、現入の折入より扱込し

梅紀^ト海^ト任改一日慈眉^ト南^ト

命^ト年^ト村^ト村^ト頃^ト南^ト電^ト久^ト

大^ト年^ト村^ト村^ト頃^ト南^ト電^ト久^ト

年^ト村^ト村^ト頃^ト南^ト電^ト久^ト

以下^ト後^ト便^ト

(急電)

發信 濟

重慶方面問題... 不明

式謝... 不明

重慶方面問題... 不明

受信者

件名 重慶方面問題... 不明

長 團 師		番發	號翰
長謀參	將少附	七	七
者帶連	部主任	參	參
長 部	長 部	第	第
		三	三
		號	號
官副謀參	任主	者保職	
尉大附		印管員	
員	部	昭 昭	和 和
3	2	9	年
2	4	年	5
1		月	月
		13	日
		日	發
		送	者
			印
			送

乙 七參第三〇號

252
2
290

淨書者印

8





七師作命第二九號

第七師團命令

五月十三日午後二時
於承德師團司令部



一、曩二、我興隆部隊ノ一部二對シ發砲セシ
八、薊州保安隊員ナルモ、如ク隊長徐
廣林以下態度不遜ナルモ、アリシカ
林田部隊ノ迅速機敏ナル出動及友軍飛
行隊ノ勇敢ナル行動並協力各機關
ノ援助ニヨリ支那側ハ五月十二日

終ニ我要求ヲ概ネ完全ニ實行スルニ
至レリ
然レトモ保安隊及自衛團ハ今尚
重火器ヲ所持シアルモノ、如ク停戦
協定ノ履行未タ確實ナラサルカ
如シ

二師團ハ薊州附近ニ於ケル重火器ヲ

撤去セシメ以テ戦区内重火器問題解
決ノ端緒ヲ把握セシトス
三、谷警備隊長ハ林田部隊ヲシテ徐廣林
部ニ對シテ要求シ其重火器ヲ即時薊州
ニ於テ又薊州自衛團所持ノ重火器ヲ
五月盡日迄ニ興隆ニ於テ共ニ林田部
隊ニ提出セシムヘシ
右兵器ハ後日支那側ニ交附スルモノ

トス
命ス
林田部隊歸還ノ時期ニ關シテハ別

第七師團長 杉原中將

注意

支那側ハ概シテ、我要求ニ應シアルヲ
以テ其行動ハ最モ慎重ナルヲ要ス

下達法

1318 副官ハ電話ニテ傳ヘ後印刷セルモノヲ送附ス

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長團
				①		

參謀部
電報翻譯用紙

秘

電報

昭和 年 九月 廿 日 午前

時 時 五分 五分

發信者

補佐官

翻譯者

着番號

32

本文

北京 三 一 五

馬洲參謀
問題解決迄一情況
北平武官元山海關二行
小官午二時北平出發天津二向

陸軍

師團長 參謀長 參謀甲 參謀乙 參謀丙 主任 連帶

眞藤

⑤

秘

陸軍部 電報紙

電報

翻譯者

昭和九年五月十四日 午前八時四十分

着信番號

師團長

宛 發信者 步兵三六三大隊長

本文

興警電 四三

部隊一行動ニ就イテハ馬淵參謀ノ指示ニ依ル
如ク命アリ

馬淵參謀ハ蘆縣ニ入城セバ一泊ノ上馬伸橋
ヲ經テ馬蘭峪ニ行ク指示アリ

然ルニ師團電命ニ依リ移動ニ関レテハ別命スト
アリ

何レヲ信ル可ナリヤ

將兵一同現地ニ止リ任務續行ヲ執望シ意氣益々旺ナリ

午後九時五分 陸軍部 電報紙

陸

軍(終)

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
					菅藤	

參謀部
紙

秘

電報

昭和 年 九月 五日 午前 四時 〇〇分

師團長宛

發信者

興隆 著
陸軍部 編輯
陸軍部 隊長 22

本文

興警電 四四

作命重火器一件承知、問題解決後は
故交渉煩し困難ナリ、菊島保安隊ハ
我が入城前既ニ三河ニ移動ニアリタリ
新保安隊ハ未ダ到着セズ、
右ノ状態ニモ夫々各種手段ヲ盡シ交渉ニ
目的達成ニ勉メツツアリ

陸軍

59 50
14

(急電)

2
第1

2

發
信
濟

七
參
第
五
〇
號

五

① 307
② 329

淨書者印
21
22

番發號	師團長	附少將	參謀長	主任部	連帶者	參謀部	主任部	職保者	昭和	昭和	年	年	月	月	日	日	發送者	發送者

電報 (暗)

發信者 參謀長

件名 薊州事件 報告

受信者 軍部 王軍 山部 野村 中島

薊州事件之現地打撃結果概要、大體ハ建リヤシク先々、重大事

實ニ、記程多シク其室ヲ確認シ、
ハカ故ニ、半持第ニ、
伴最佛先

所因、此種會ニテ、薊州附近ニ於テ、重大事ヲ、
確實ニ、撤去ヤシク、
全戦



34
22
13

其三

④

①

1. 三河ヨリ移駐ニ来リテ

23
24

2. 新保家ニ、鞍掛ヲ付テ也ナク

昭和八、四、大阪OK納

3. 魏永和ノ部ニ、重太郎ヲ禁ス

4. 自工国ノ重太郎ノ今直ニテ、抑志ニ難ク、又情下ニテ、後着ニ

謂志ノ上、田収先、後収ニシ、凡

- ① 275
 - ② 309
 - ③ 301
- ④

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部
電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年 三月 十四日 午前九時二分

參謀長宛 發信者 軍參謀長

着番號

32

本文

関電二三四ソノ一

停戰協定地域内ニ在ル保安隊及民
團加何等日本軍ノ諒解ヲ得ル事ナク
小銃及拳銃以外ノ兵器ヲ携帶シ在ルハ
停戰協定ノ精神ニ違及スルモノナリ
軍ハ刺殺事件ノ發生ニ鑑ミ友那側ヲシテ
更ニ停戰協定ヲ嚴守セザル可カラザルノ
精神ヲ

(續)

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
			②		菅藤	

參謀部
電報紙

秘

電報

昭和九年五月十四日
午前九時五分

參謀長

宛 發信者 軍參謀長

着番號 33

本文

再認識セシムル為メ停戰協定地域内
 於ケル是等違法兵器、撤去、各種
 排日行為ノ取締リ等ヲ嚴重ニ要求スル
 必要アリト思考セラレ
 就イテハ貴官ハ支那側ニ對シ右ノ件ヲ嚴
 重ニ要求シ速ニ之ガ實行ヲ督促シ若シ
 支那側ニシテ

續

陸軍

支那側ニシテ

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
			①		皆藤	

參謀部
電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年 五月 五日

午前 九時

午後 九時

參謀長

宛

發信者

軍參謀長

翻譯者

着番號

34

本文

関電ニ三四ソ、三

誠意ヲ欠キ事實ヲ否認シ軍ノ要求ニ
 應ゼザル時ハ軍ハ不得已是等兵器ノ所
 有者及一部ノ排日行為ニ對シ隨時適宜
 ノ手段ヲ講ズルニ至ル可キ旨警告セラレ
 度
 天電才五〇〇號ノ次才モ在リ、特ニ貴官ノ
 配慮ヲ乞フ

天津軍ハ于學忠ニ對シ側面的要求才

陸軍

配慮アリ度)

(北平、天津以外ハ参考迄)

終、

通電先

參、陸、北、天、上、山、承、七師

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
			⑤		④	

76

參謀部
電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年五月一日

午前六時三十分
午後一時

翻譯者

着信番號

42

師團長

宛發信者興隆警備隊長

本文

興警電四六

保安隊ノ武器ニ對シテハ保安隊長ノヘテヲ招ク

引上ゲテ交渉セントシツツアリ、

自衛團ノ武器ハ主トシテ薊縣東方地区ニアリ、

目下有力者ヲ仲介者トシテ吾ニ提供セシムル如ク

指導シツツアリ、詳細ハ後報ス。

陸軍

秘

參謀部
電報翻譯用紙

電報

昭和九年五月一日
午前七時四五分
午後一時三十分

翻譯者

着番號

55

師團長宛 發信者 興隆警備隊長

本文

興警電 四七

蕪縣縣長同興安局長ヲ仲介者トシ、前、後任兩保安
隊長ヲ招キ、明十五日武器問題ヲ交渉スル事定、
自衛團ノ有スル武器ニ對シテハ副團長其ノ他ヲ招致シ
兩者トモ停戰協定ノ主旨ヲ了解セシメ當隊ニ提
供スル如ク指導シツツアリ、
蕪縣自衛團ノ武器ハ玉田保安隊ニ對スルモノナル故
兩者ヲ同時ニ引上ゲルヲ理想トスルモ玉田ニ對シテハ實
施困難ニ付キ上司ニ於テ成ル可ク速カニ考慮

陸軍

生野公三

26

電報翻譯用紙

セラルレバ 當方交渉容易ナリ。
通電先 師団長・歩一旅団長・歩二旅団長
歩二六聯隊長

陸
軍

自

派步二六四 薊情第一號

薊縣情報報告

於薊縣城內

林田太隊長

昭和九年五月十五日午前時
第七師 團長 殿

薊縣自衛團重火器引上ニ関スル件報告

一、一般情勢

一、薊縣自衛團ノ重火器所持ノ目的ハ主田保安隊ニ對スル唯

一、對抗手段タラシメトスルモシ如シ

二、自衛團長李維周ハ從來ノ態度善ニ今亦劉家庄事

件等ヨリ觀察スルニ抗日家ナルト確實ナリ

自衛副團長張漢卿(名稱ハ副團長ナルモ實力ニ於テハ

團長ト同格ニシテ現ニ兩者ハ勢力争ヒラ爲シツクアリ)ハ諸情

報ヲ綜合シタル結果親日家ナルト疑ナシ

陸軍

昭和八・四大版本納

3. 重火器ノ所在地ハ概ネ玉田縣トノ境界線附近ニモノ如ク判断セラル

ニ現在迄ニ知り得タル自衛團所有重火器ヲ情况左如シ

淋河左

輕機 二

王家店

迫撃 一

別山

迫撃 一

大山王庄

輕機 二

三、右ハ尚不確實ナルヲ以テ右ノ如ク探知手段ヲ講セントス
ノ自衛團團長ヲ説服シ之ヲ確實ナラシム

二、更ニ各地ニ密偵ヲ遣シ之ヲ探知ス

四、前述一般情勢ヨリ考フルニ重火器引上ハ劇縣自衛團

ニ對シ最モ痛痒ヲ與スク且ツ目下自衛團長ノ態度ヨリ

判断スルニ「勢」隆ニ持參セヨトノ如キ緩慢ナル手段ヲ以

テシテハ到底実行不可能ナルヘシ此際断乎強制執
行ニ依ラサル可カラスト思惟ス尚玉田縣及荊縣ノ關係
ニ鑑ミ荊縣ニ要求スルハ片手落ノ感アルヲ以テ兩縣同
時ニ徹去スル如ク交渉セハ荊縣モ甘ンシテ持欠スルニ至
ラン

之ヲ以テ上々ノ策ト思料シアルモ玉田迄手ヲ延ハスコトハ當隊
ニ於テハ困難ナルハ上旬ニ於テモ手配考慮セラレ度

一般民衆情勢

一、宣撫班ノ活動甚ニ佈告文ノ配付、施療等ニヨリ民心
安堵皇軍ノ公明正大ニシテ正義ノ表徴ナルコトヲ一般民
衆ニ了解セシメアリ

二、民衆ハ日ヲ追フニ平常ニ復シ既ニ三分ノ二ハ開店
セルノ情態ニアリ

保

報告先

師團長

旅團長

聯隊長

注

將來

自

保

ハ自衛団ニ関スル

ハ保安隊ニ関スル

報告トス

昭和八・四大版原本

陸軍

保

激歩三六五七刺情第二號

昭和九年五月十五日午前七時

第七師團長殿

於刺縣城內
林田大隊長

保安隊兵器(重兵器)引上ニ関シ目下採リツル手段

一、刺縣々長及公安隊局長其他要人等ヲ仲々者トシテ
前保安隊並ニ新到着保安隊所持ノ重兵器ヲ調査シ

穩密ナル手段ヨリ彼ニ提供ヲ促サントス

二、前保安隊所持ナル重兵器ハ輕機四五挺ナルモノ如
ク其他ハ自動短銃小銃ニナリト目下調査中

三、新到着保安隊ハ當部隊在刺中ハ入城セスト云ヒアルモ
我部隊在刺中ニ到着スル如ク指導シツアリ

四、本日午前十時頃當地本部ニ於テ新舊保安隊長
等ト會見折衝ノ事定ナリ尚報告書書類

新隊長
五占元
舊隊長
待廣林

昭和八年四月大坂本納

軍

尚當會見ニハ殷汝耕カ持ニ此機會ニ將來日軍トノ関
係ヲ内滑ナラシムルタメ連絡者トシテ近ク薊縣保安隊ヘ配
属スル曲世和ナルモノヲ出席セシム該人物ハ三十才ノ青年者ニ
シテ日本陸軍士官学校出身者ナリ

(報告先)

師団長
旅団長
聯隊長

2

發信濟

國難大情勢ニ於テ日夜努力セシムルハ凡ク敬謝ニ堪ヘズ
此旨一同一當ニ案ヲ察後ニ最後ノ目的ヲ貫徹スルニシテ
（シ）

興亞電報トテ敬承

電報（暗）

受信者 薊州 林田少佐
件名 薊州事件 第十之報

發信者 參謀長

師團長	發號	番
參謀長	七	參
附少將	第	七
主任部	號	七
連帶者	部	長
參謀長	部	長
主任部	部	長
參謀長	部	長
附大尉	部	長
員	部	長
昭昭和	昭昭和	昭昭和
年	年	年
月	月	月
日	日	日
發送	起案	發送
者	發	送
印	送	印

不

若

① 27.7.8
② 27.7.8

淨書者印

松村

11

支那側主權を主張するに於て、既に軍より其、五津、井田、前

輩は之を、協志、排日、及び、要本、(一) (二)

者、玉川、保家、一、支、(一) (二) 劉村、自、(一) (二) 田、(一) (二)

如、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二)

支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二)

支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二)

支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二) 支、(一) (二)



師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶
					〇	

參謀部

電報翻譯用紙

秘

電報

昭和九年五月十五日 午前七時五分

師團長宛 發 興隆警備隊長

本文

興警電 四八

本日午前十時頃当地本部ニ於テ新旧保安隊長ト會見折衝ノ豫定ナリ

尚報告書類モアルニツキ飛行機ノ協力ヲ希望ス

翻譯者

着番號



陸軍

發信濟

發翰
番號

七參第七六號

者保職
印管員

昭和

年

月

日起案
日發送

發送
者印



師團長

附少將 參謀長

主任部 連帶者

部長部

主任部 參謀副官 附大尉

部員

件名
受信者

劉州 劉州又件 弟古報
林田少佐

發信者
參謀長

愛報(暗)
興警電回九受候

師團切、貴家、努力並其成功ヲ待テハス

此書一冊義一前進ハ中トシテ友

(シ)

其(急電)

① 231
② 193

③

淨書者印

24

若昔は今日、交遊の形、本邦創カ、重たき、全部順義ニ

集結ニシテ、^甘昔は、要スル、應シ、難ク、^甘所信ニ、^甘所信ニ、^甘所信ニ

別集録

交遊也、順義ニ、^甘別、^甘幕僚ヲ、^甘派遣ニシテ、^甘現物ヲ、^甘送付ニシ

テ、^甘確認シ、^甘後、^甘在交遊ヲ、^甘先打テ、^甘幕僚ヲ、^甘派遣ニシテ、^甘現物ヲ、^甘送付ニシ

レ

依テ、^甘交遊ノ、^甘経過、^甘先打テ、^甘幕僚ヲ、^甘派遣ニシテ、^甘現物ヲ、^甘送付ニシ

(急電)

24-3

其ノ

發信所

七参第七三號

七参第七四號

1) 25/1
2) 31/1
3) 18/5
4) 21/9

#0 339
7 3 17
7 3 251

淨書者印
2/一七
22-2

番發	昭和	昭和	日起案
七	年	年	日發送
参第七	月	月	者發送
四			印
號			
師團長	參謀長	少將	主任
連帶者	部長	部長	主任
參謀長	副官	參謀	主任
員	部		

件名 薊州又件 十五報

受信者 軍 武平 三軍 山崎 承輝

受報(略)

發信者 考 譯 友

薊州附近重大為問題、就其在薊州井田部派ヨリテ多クハニハリ十五

日午後七時差、報者ニ依リテ七参第七〇号ニ基テ我軍ニ討テ今明の

中ニ何カノ回答ノ必要ニ至リテ實現ノ可能性アリトシテ判断セラルトシ

若シ東軍ノ軍ヲ拒ミ去リテ今即例カニテ提出セハ、帝國ニ直ニ井田部ヲ討テ現駐地ニシテ

3241

頁三

劉州ニ元々支那遷延ノ北ニ均合ニ師國ニ在リ支海地ヲ同義ニ

移シ別ニ幕僚ヲ派遣シ

本總示和知ノ室大器ヲ同也ニ采

(遷延合取五ノ内實ニ三ヨリ天

結マニテ以テ支那側ニ討シ

以集停致協定ノ

精神ニ及

五種兵器

4213

ヲ敵ニ及ニ係用ニシテ又實ニ理氣ニ

頁三

ニト且知素

ウリ人

語ナキ

用ニテ

築造ナ

其四

ズ下ノ一ヨリ敵手先均合ニ一軍ニ迄時没収ニキ者 警告先ニ

2431

シテ本支海ヲ

一打ナ切

劉州ニ先

新設ヲ

保護ニヨリ

ルニ

端

印

右所開之圖之流ニ関シ
密接助ヲ乞フ

(北平以外ニ於テ之)

昭和八、四、大阪OK納

陸軍

帶連	任主	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參	長
	百藤			6		

參謀部
電報用紙

電報

昭和九年五月十五日 午九時二分

參謀長

宛

發信

宛 海關特務機關

翻譯者

着番號

九

本文

山機二二六其一一

昨日松井中佐、柴山中佐、大橋參謀、馬淵參謀及

小宮、陶尚銘、殷汝耕、蘇玉祺、會同之

戰区問題ニ付キ協議ス、辟刀頭、陶電ニ三四、

保安隊及民團所有ノ重火器撤去、竝排

日行爲取締リ、要求ヲ提議ス、

支那側ハ十分其ノ意ヲ諒トシ、實行ニ取掛ル

積リタルヲ督察、守員ノ權限上地方警務機關

(靖郷局也、如キ)ニ對シ、

陸軍

師團長	參謀長	參謀甲	參謀乙	參謀丙	主任	連帶

參謀部

電報翻譯用紙

電報

昭和九年五月十五日 午前九時二十分

參謀長

宛

發信者 山海關特務機關

翻譯者 着信 番號



10

本文

強制 山機ニニ六ノニ
 連非力ヲ有セザル不備在リト言述ヲ試
 ル口振リ在リシモ我ガ方ノ決意ヲ示シ
 尚于學忠ヨリ更ニ嚴命ヲ發スル様手配
 ス可キ旨要望セリ
 其ノ他玉田自衛團ノ解決・保安隊交代
 時ニ於ケル日支會同
 玉田保安隊改革・戰區警務機關整
 理改善等ニ就テ適宜其ノ實行ヲ要求ス

陸軍

本十五日午前引續キ會同ヲ繼續スル積リ
ナルモ取敢ズ (終)

通電先

関・天・北・七師

2

(急電)

發信濟

七參第 方大號

昭和 3 年 5 月

15 日起案

日發送



淨書者印

22

108

番發	號翰	師	團	長
參	少	將	參	謀
部	主	任	連	帶
部	長	部	部	長
任	主	參	謀	副
官	附	大	附	官
者保	職			
印管	員			
部	員			

件名

受信者

薊州

井田カ他

發信者

參謀長

發報(暗)

費以情報連絡所 明十字 軍用持ッ 汎遣ス

費以情報連絡所 時刻ヲ 承リ反

(急電)

号

發信濟

七參第 方大號

者保職
印管員

昭和 3 年 5 月

15 日起案
日發送
者發送
印



長團師

長謀參 將少附

者帶連 部主任

長部 長部

官副謀參 任主
尉大附

員部

受信者

薊州 井田カ他

發信者

考謀長

愛報(晴)

貴方情報連絡、所明十字、軍用紙、紙遣、又

貴方情報、晴刻、洋リ、友

淨書者印

22

1028

副官部	謀參丙	謀參乙	謀參甲	長謀參長	主任
-----	-----	-----	-----	------	----

參謀部

電報

翻譯者

昭和九年五月十六日 午前 午後 時 時 分 分

發着番號 15

師團長宛 發信者 興隆警備隊長

當地天候良好ニシテ飛行差支ナシ

陸軍